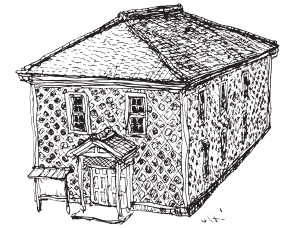
演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

◉常任理事　土屋大洋（つちや もとひろ）

慶應義塾から世界の大学院へ

コロナ禍が実質的に終わり、国際担当常任理事として諸外国の大学の経営陣との交流が増えました。そこで徐々にわかってきたことは、各国の大学が重点を学部から大学院へとシフトさせているということです。学術分野だけでなく一般企業の雇用市場でも「修士号当たり前、博士号普通」という世界が来ているからです。

そして、諸外国の学生の多くが、学部、修士課程、博士課程をそれぞれ異なる大学で学んでいます。日本では大学院への進学は、学部と同じ指導教員の下で、いわば一子相伝の学問を極め、後継者の道を目指すという意味合いが少なからず残っていますが、諸外国では、自分の理想とするキャリアに必要な学問を求めて渡り歩きます。欧米だけでなく、アジアの有力大学も、学部で教育した後は、修士号・博士号を外国の有力大学で取らせ、国際経験を積ませています。

これがもたらす学術的な恩恵は、外国の大学にいるかつての師匠や仲間たちと国際共同研究を行い、国際共著論文を増やすことで、大学ランキングに資する研究成果を量産できることです。残念ながら、現状の評価システムにおいては、単著の論文を和文論文誌に載せても大学ランキングには貢献しません。

日本の大学の研究力低下が指摘されることが多くなっていますが、それはこうした大学院をめぐる知のゲームに日本の大学の多くが乗り遅れているからです。そのゲームが必ずしも良いものだとは私は思いません。しかし、その場に参加し、競わないと評価されなくなっています。世界大学ランキングで上位にいる大学は、いずれも留学生の割合が20％を超えていますが、慶應義塾は7％にとどまります。

慶應義塾は、欧米に刺激を受け、日本の文明化に多大な貢献をした福澤諭吉先生によって作られた学塾です。もっと多くの留学生を受け入れ、そして塾生を留学に送り出したいと考えています。慶應義塾に入学された新しい塾生の皆さん、慶應義塾で大いに学び、そして、ここからさらに世界へ飛び出していくことも今のうちから考えてみてください。